

Amazon Folk Museum

山口吉彦 / アマゾンコレクションの保存と活用に向けて



プロローグ／私のアマゾン 山口吉彦



激しく降りそそぐ雨を集め
茶褐色に濁った大河アマゾンは悠々と流れる
それ自体がいきものであるかのように泣き
時には笑い そして怒り 叫ぶ
まるで文明人の挑戦をあざわらい
その侵入を全身で拒むかのように
それを見つめる私は
アマゾンに行く一人の小さな旅人である
網の目のように張りめぐらされた
水路のひとつをさかのぼる
燃えさかる巨大な火の玉のような太陽が
水面にその姿を映しながら
暗緑色の原始林の彼方に沈んでいく

私を乗せたカヌーは 積荷の重さにあえぎながら
一夜の宿を求めて岸辺に近づく
そこは太古さながらの密林が展開され
湿った着生動物が樹の肌をおおい
大蛇のように太く曲がりくねったツルが
木の頂き目指してはい昇る
残照を浴びた緑の壁は
しだいに黒ずんだシルエットと化していく……

これは、アマゾンの魅力にとりつかれ、その調査と研究に青春を賭けていた若き日の筆者が、
ジャングルの奥深くにあるインディオの集落を目指して、何日も何日も、
川をさかのぼっていった時の手記の一節である。
アマゾン——この言葉ほど世界の探検家たちの心をかきたて、ゆさぶる言葉はないだろう。
私は子供の頃から自然が大好きで、世界の秘境アマゾンに憧れを抱いていた。
学生時代には、アマゾン探検誌や、アレキサンダー・フォン・フンボルトや
ヘンリー・ベイツ、アルフレッド・ウォーレス等博物学者の記録を読み耽り、
その度に私の中のアマゾンへの夢は果てしなくふくらんでいった。



時には、白夜の季節に、北極圏に住むラップ人を訪ねて、彼らのテントに寝泊まりしたこともある。
またある時は、単身、サハラの奥深くわけいった。ところが、この熱砂の砂漠で強盗に襲われ、お金や持ち物はすべて、
水筒まで奪い去られるという事件に出くわし、私はそれから三日三晩、厳しい砂の世界、死の世界をさまよい歩いた。
幸いポケットに偶然入っていた3個のオレンジで渴きをいやし、かろうじて命をつなぎ、4日目に、たまたま通りかかったキャラバン
の人達によって救われた。あの時ほど“水と緑の世界”を渴望したことはなかった。そして子供の頃から心に描いていたアマゾンへの
夢が、再び強烈によみがえってきた。
その後、ヨーロッパやアメリカの博物館や大学、研究所などで、アマゾンに関する本や文献をむさぼるように読んでまわった。
それから、密林の中で廃墟になって埋もれているマヤ文明の跡を訪ねたり、アンデス山中に栄えた謎のインカの遺跡を訪ねたりしながら、
徐々にアマゾンへの道をたどった。

少年のころからの夢を胸に秘め、私は、今から20年前、初めてアマゾンの源流地帯に足を踏み入れた。
アマゾンとは言え、源流付近は、太古の雪をいただく標高6,000メートルのアンデス高山の雪解け水を集めた極く小さな流れに過ぎなかった。
しかし、この流れが谷をぬい、密林を貫き、幾多の支流を集め、徐々に水かさを増して、やがて東方6,300キロ先の大西洋に注ぐ
“大河アマゾン”になるのだ。
そのドラマに満ちた壮大な絵巻きを思い浮かべると、感無量になった。必ずや、この大河の上流、中流、下流そして支流と踏査し、
その密林にひそむ動物や植物や、そして自然を友とし原始の森に生きるインディオ達の生活文化を、自分のライフワークとして調査、
研究してみたいという熱い願望が胸の奥から沸き上がってきた。
その後、機会に恵まれ、今まで数えきれない程アマゾンを訪れたが、その度に、密林の中で繰り広げられる自然の神秘や、大自然の
ふところに抱かれておおらかに生きるインディオ達の魅力にますますとりつかれていった。
やがて、私のアマゾンの滞在は、のべにして十数年になろうとしている。

今、私は思い出す。
コバルトブルーの光沢をした「森の妖精」モルフォ蝶が、アマゾンの太陽に照らされて、キラキラ輝く時に感じたあの胸のときめきを。
「いきている宝石」ともいわれるアグリアス（ミイロタテハ）が、捕虫網の中で翅をバタつかせていた時に、夢かと思って
頬をつねってみたことを。一年中、花が咲き、果実が熟す木々の頂きで飛び交う極彩色のコウゴウインコのことを。
それに、緑の森に一瞬にして赤い花を咲かせる真紅のショウジョウトキの群れのことを。
しかし、時には、恐ろしい一面もアマゾンにはある。密林を跋涉していて、足元からジャララカやブッシュマスターといった
毒蛇が飛び出し、ゾクツとしたことも再三あった。また、ある時、木と木の間にハンモックを吊って野宿をしていた際に、
耳元でゴソゴソと何かが動いているので手を伸ばしてみると柔らかな毛むくじらのものに触れた。
急いで懐中電燈を当ててみると、大人の掌ほどもあるタランチュラという毒グモだった。とっさにハンモックから飛び下り、
払い落としたものの、腕や顔に毒グモの毛がかかって赤くはれあがっていた。
とにかく、インディオの集落にたどり着くまでの長い道中、予想も付かないようなハプニングがいろいろと起こるものだった。
しかし、目的地に到着したからといって、もう安心というわけでもなかった。初めての部族に接する場合には「未知との遭遇」にも似た緊張感が
伴い、彼らのタブーをおかさないうに慎重に行動しなければならない。でも、いったんインディオ達の警戒心がとけると、
彼らは遠方からの客人をあたたかくもてなしてくれた。風俗、習慣はまるで違っていても、この地球上に住む同時代の人間同志が、
カシリ（濁酒）を酌み交わし談笑していると、まさに「人間の原点」に立ち返ったような気がしてくるのだった。
インディオ達は、たくさんのことを私に教えてくれた。アマゾンの大自然の中で、自然を神とあがめ、自然と調和を保って、
生態系のバランスを崩さずに生きるインディオの生活の知恵は、機械文明に侵され人間性を喪失しつつある現代人に、
大きな驚きと感銘を与えてくれるに違いない。
アマゾン——この現代版“エデンの園”を失樂園にさせてはいけない。それが私たちの心からの願いであり、祈りなのです。

「共生の大地～アマゾンに生きる人々」より引用

アマゾン民族館について



アマゾン民族館は文化人類学研究者である山口吉彦氏が収集した民族資料を
展示・収蔵する施設として 1995 年開館 (2014 年閉館) しました。

アマゾン奥地の様々な先住民族と出会い、長年に渡って集めた膨大なコレクションは 2 万点にのぼります。

個人の収集では、恐らく世界においても最大規模のものと言われています。

山口氏はこれらの資料の調査・研究と共に、展示を通して、神秘的に満ちた大自然と共に生きる
人間の英知を伝えてきました。

またアマゾン民族館閉館後の現在も、その情熱と理念を分かち有志と共に活動の継続を目指しています。

アマゾンコレクションの価値について

2万点におよぶ膨大な資料

ほとんどの工芸収集品が、民芸品店などで購入されたものではなく、山口氏自身が現地におもむき、製作、使用されている現場で物々交換などにより入手されており、資料の出所や利用方法などについての情報が確かで、その学術的価値を高めています。

生活工芸品 約8,000点、生物の標本、剥製 約12,000点。

現在では入手出来ない貴重な文化資源

収集されたものは、社会的変化や政治的状況のために調査困難なアマゾン川流域のもので、またそれらの地域は、近年、環境破壊や市場経済の浸透などで先住民の伝統文化が急速に消滅、あるいは大きな変化を余儀なくされており、今後入手することがきわめて困難な貴重な資料です。

(多くのブラジル先住民資料を収蔵していたリオデジャネイロのブラジル国立博物館が2018年に全焼、
また2019年に発生した記録的アマゾン森林火災においても先住民の文化を象徴する貴重な資料・工芸品が消失しました)

民族の生活の知恵の集積

日本国内だけでなく、世界の有識者が注目しています。

山口夫妻が収集した資料は、民族の生活に密着したもの（土器やかご、衣服、装身具、弓、矢、槍などの狩猟道具、楽器など）から、哺乳類、爬虫類、魚類、鳥類の剥製、昆虫など生物標本と幅広く、国立民族学博物館 中牧弘充名誉教授、及び山本紀夫名誉教授などの有識者がその価値を高く認めています。



TRACING THE ROOTS 2019「Amazon folk museum」にて

コレクションの維持保存と、展示活用に向けて／後世に遺していくためにできることは何か

共通問題としての気候変動

近年この列島でも台風、豪雨、河川氾濫などの自然災害の引き起こす被害が大きくなり、気候変動の切実さが実感されています。

その原因のひとつは、温室効果ガスにあります。北極圏や南極大陸の氷が溶け海面が上昇し、太平洋諸島などは遠くない未来にもはや住めなくなるといわれています。ところが、排出量の多い国はその声に耳を傾けず、排出目標を定めた合意から離脱しました。あたかも、沈みゆくのは島々でわれわれではない、と言わんばかりに。その「われわれ」は、人類の共通基盤としての地球を自らのためだけに分割し、他者との共生を拒んでいることとなります。

アマゾンにおける「共生」

世界最大の森林面積を誇るアマゾンの森は、温室効果ガスとなる二酸化炭素を土壌にとどめています。植物は光合成によってつくるエネルギーの4割近くを土壌に与えて微生物の住処をつくり、それらから窒素やミネラルを受け取り生長します。この「共生関係」によって土には水が保たれ、アマゾン河となります。その河は多くの動物・植物・人間が暮らす森を育み、その森が河を育みます。ところが近年、その森を私的に経済利用する開発が進んでいます。深刻な土壌浸出がもたらされ、地球を支える共生関係はひび割れ始めています。

深まる分断と求められる「コモン」

これらの場合では、ひとつのことが見失われています。それは、「わたしたちがこのひとつの惑星を共有していること」、「わたしたちは他者といまをともにしているという感覚」つまり「ともにあること」といえるでしょう。だからこそ、「私」にも「公」にも還元されない「コモン」を育てていくことが大切なのではないのでしょうか。

ともに世界をみるために

山口吉彦さんが収集したコレクションの重要性は、それが失われれば二度と取り戻せない希少性にだけあるのではなく、それを通じて、わたしたちがインディオとともに、ジャガーやコンゴウインコや他の存在とともに、アマゾンとともに世界を見る、その眼差しを贈り与えてくれることにあります。山口コレクションが過去から贈りとどけているのは、わたしたちに到来すべき未来なのです。

寄稿：成瀬正憲（日知舎）



TRACING THE ROOTS 2019
「Amazon folk museum」にて

アマゾンコレクション今後の選択肢とご協力のお願い

<資料の展示や新たな形での活用の企画・提案を募集しています>

コレクションは、生物資料と民族資料（工芸品）に大別されますが、それぞれの分野に特化した表現や、芸術的な表現、またはそれぞれを融合させることで様々なアウトプットが可能です。

展示する資料の貸し出し、学術研究、データベース構築、保存に必要な資金の調達（寄付やスポンサー）、資料の一部の売却、または貸与可能な収蔵場所等、皆さまからのアイデアを広く募っております。

<移転のためのボランティアを募集しています>

2020年3月が期日の資料の移転に伴い、山形県鶴岡市にて、資料の整理や運び出し等で戦力となってくださる方を募集しています。
お問い合わせ先：nasuhiko@hotmail.com（一般社団法人アマゾン資料館）



山口吉彦氏 プロフィールとこれまでの活動履歴



山口吉彦

1942年生まれ。東京農業大学農業拓殖学科卒。フランスのボルドー大学、リヨン大学へ留学。約20年間にわたり、アジア、アフリカ、北米、中南米、オセアニアなど80数カ国を訪ねて文化人類学的、生物学的調査、研究、資料の収集に従事。在ペルー日本国大使館付属日本人学校、ならびに在ブラジル、ベレン日本総領事館付属日本人学校で教鞭をとる傍ら、アンデス、アマゾン地域のインディオ部族でフィールド・ワーク。帰国後、故郷鶴岡市で、アマゾン民族館の館長を務めながら国際理解と交流の促進に尽力する。

これまでの活動履歴

- 1942年 山形県鶴岡市に生まれる。
- 1965年 東京農業大学農業拓殖学科卒業。フランスのボルドー大学へ留学し、のちにリヨン大学へ移る。
- 1967年 フィールド・ワークを始めアジアやアフリカ、北米、オセアニアなど85カ国を回る。
- 1971年 在ペルーの日本人学校、ならびに在ブラジル、ベレンの日本人学校で教鞭をとりながらアマゾン奥地のインディオ集落などで調査、研究を開始。
- 1975年 外務省派遣教諭としてベレンに赴任していた考子さんと結婚。
- 1980年 膨大なコレクションと共に鶴岡市に帰郷。
- 1982年 自宅に「アマゾン資料館」を開設し、これまで収集した資料を公開。
- 1985年 外国人留学生に、ホームステイなどを体験させる「庄内国際青年祭」を実施。
- 1987年 国際交流活動組織「庄内国際交流協会」を発足。
- 1988年 山形新聞3P賞（平和賞）を受賞。
- 1990年 国際交流基金地域交流振興賞を受賞。
- 1991年 NHK東北ふるさと賞を受賞。
- 1991年 鶴岡市に、所有する生物資料を中心に展示した「アマゾン自然館」を開設。
- 1994年 「アマゾン民族館」を開館し、館長に就任。
- 1996年 大同生命国際文化基金地域研究特別賞を受賞。
- 1998年 サントリー地域文化賞を受賞。
- 2003年 カバヤ食品の食品玩具「大神秘アマゾン」の監修を務める。
- 2005年 鶴岡市制功労表彰受賞。

『共生の大地 -アマゾンに生きる人々-』共著者：鴻池安志（1992年）大平印刷

『アマゾンに学ぶ「我ら地球家族」』共著者：福原義春（1998年）求龍堂



収蔵目録



資料名：酋長の羽根冠
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ（シクリン）

儀礼の際、酋長や戦士のリーダー格のインディオの頭飾り。強さと権力の象徴。オオギワシ、コンゴウインコの羽根を使用。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 制作民族：タビラベ

収穫の祭りに用いられカラグランデ（大きな顔）と呼ばれている。インコの羽毛、淡水の貝、ブリヤシを使用。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：アバライ

黒く染られた木の皮の羽が数十本もついた。シャーマンが全体をすっぽり覆って儀礼の時に着用する。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 制作民族：カマユラ

カマユラはシングー川の最上流地区に住む部族。ヤシの葉で作られた仮面は水の精を表現、シャーマンが儀式の際に身に着ける。



資料名：樹皮布の仮面
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ティクノ

ティクノ族の成女式に用いられる。成人となる女性を狙う悪霊を象徴し村人が身に着て踊り成女たちが悪霊を退散する。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ココマ

アマゾン川に生息するタルターガ（ヨコクビカメ）の甲羅。頭部は鳥の羽毛を用いられ、重量感と迫力のある仮面。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ティクノ

この木製の仮面はジャガーを象徴しており顔の彫刻、口ひげなど特徴がよく表現されている。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ティクノ

仮面には神話上のキャラクターやジャガー・鳥・魚などの形をした自然の精霊を表象したものなど様々な種類がある。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ティクノ

ティクノ族の成女式に用いられる。樹皮布で作った仮面。成女式の儀礼の際に村人が被る。



資料名：仮面（樹皮布製）
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ティクノ

ティクノ族の成女式に用いられる。村人が身に着て踊る。この仮面は森に住む精霊を象徴。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、アクレ州
 制作民族：カシナワ

素焼きの土製仮面。



資料名：頭飾り（成人式用の羽飾り）
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

厳しい修行と試練に耐えて一人前になった男が成人式にかぶる羽根製の頭飾りで、扇子のように開いたり閉じたりすることができる。



資料名：頭冠
 収集地：ブラジル、アマハ州
 制作民族：ガリビ

羽根製の頭飾り。扇の輪回りに黒いホウカンチョウの短い羽根を取り囲み、赤いコンゴウインコの長い羽根がアクセント。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：アバライ

羽根製頭飾り。籠状の台に多色の羽根を取り付け、上部にオオギワシやインコの羽根を取り付けてある。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル
 制作民族：カヤポ

羽根製頭飾り。緑のインコの短い羽根を馬蹄形・左右対称にたらし、赤いコンゴウインコの羽根を中央につけて儀礼の際に着用する。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

羽根製頭飾り。



資料名：羽根帽子 LORI-LORI
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

ヤシの繊維で作った扇状の台に紅ヘラサギの羽根をつけたもの。女性が踊りたときに着用する。



資料名：不明
 収集地：不明
 制作民族：不明

タグなし、資料なし



資料名：頭飾り キノギリヤマアラシ（針鼠の針）
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

ヤシの葉の枠の周りにキノギリヤマアラシの針を取り付けた、戦士用の頭飾り。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 制作民族：カヤポ（メントゥクチレ）

インコの羽根つき頭飾り。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 制作民族：カヤポ（メントゥクチレ）

インコの羽根つき頭飾り。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

ヤシの葉で編んだ台に、コンゴウインコの羽毛を取り付けた男性の儀礼用頭飾り。



資料名：羽根製頭飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：グアジャジャラ

儀礼のとき男性がつける頭飾り。ダイサビの羽根、ベニコウゴウインコの尾羽、ホウカンチョウの羽根を使用。台は綿糸。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：グアジャジャラ

儀礼のとき男性がつける頭飾り。インコの羽毛を使用。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：アバライ

ホウカンチョウの黒にインコの緑が映える男性の儀式用の頭飾り。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

黄赤黒3色の組み合わせが鮮やかな儀礼用の頭飾り。



資料名：仮面
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 制作民族：タビラベ

タビラベ族の仮面に装着する羽根。スミレコンゴウインコの尾羽を使用。

収蔵目録



資料名：羽根製頭飾り
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ
 ピンク色はベニヘラサギの羽根、黒はホウカンチョウの羽根、既入りはタカの羽根を使っている。儀礼のときに男性が被る。



資料名：首飾り（ネクタイ）
 収集地：ブラジル、マツトグロツ州
 制作民族：カヤボ（メントゥクチレ）
 パラ州のカヤボ族から分装したマツトグロツ州のカヤボ族が作ったもの。



資料名：ジャブチ（陸亀）の甲羅の首飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ（KAAPOR）
 リクガメの甲羅と木の実の首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：ムンドルク
 木の実や動物の牙、歯、骨などで作られている。こちらの首飾りには、50個のワニの歯が付いている。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：ムンドルク
 木の実や動物の牙や骨で作られたムンドルク族の首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ（KAAPOR）
 ボア（大蛇）の骨で作られた、ウルブ族戦士の首飾り。



資料名：のど飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ（KAAPOR）
 ボア（大蛇）の肋骨を取り付けた戦士用ののど飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ
 首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マツトグロツ州
 制作民族：タビラベ
 大きなワニの歯のついた戦士用の首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マツトグロツ州
 制作民族：タビラベ
 大きなワニの歯のついた戦士用の首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：トゥカノ
 トゥカノ族の首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：カマコラ
 巨大な淡水真珠貝のついた首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ
 ヒョウタンに焼きごてで模様をつけている。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：グアジャジャラ
 ヒョウタンつき首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：テンベ
 ヒョウタンと羽根つきの首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：トゥカノ
 大きな木の実のついた首飾り。戦士用。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ
 何重も重ねて首にかける。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：ムンドルク
 トゥクマンの硬い殻を割って糸を通した首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ペルー、マドレ・デ・ディオス県
 制作民族：シビーボ
 牛の目（オッコ・デ・ボイ）と呼ばれる木の実のついた首飾り



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：トゥカノ
 骨に穴をあけて、黒い木の実をあしらった首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：トゥカノ
 巨大魚、ピラクーの鱗に穴をあけて円形にしたシンボルにした首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：シクリン
 木の実とオオワリスドリの黄色い羽根で作った首飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：カヤボ
 淡水貝の薄片がたくさんついている首飾り。戦士用。



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、アマゾナス州
 制作民族：ワイワイ
 子どもの腱やかな成長を願って、羽根と綿糸の飾りを腕に巻き付ける。



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ（KAAPOR）
 綿糸にインコの羽根を取り付けたもの。



資料名：頭飾り
 収集地：ブラジル、ハラ州
 制作民族：カイアボ
 ヤシの葉で頭飾り。日常身に着けるもの。



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、マラニョン州
 制作民族：ウルブ（KAAPOR）
 綿糸の周りにインコの羽根を取り付けたもの。ウルブ族は自らを「森の足跡」を意味する「カアボル（KAAPOR）」と呼ぶ。

収蔵目録



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 木の皮を丸くして戦士が腕に着用する。
 インコの羽根つき。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：テンベ
 羽根で飾られた首飾り。



資料名：胴飾り
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 レア（アメリカダチョウ）の羽根で作った胴飾りで
 儀礼の際に身に着けて踊る。



資料名：腰布
 収集地：ペルー、マドレーデディオス州
 制作民族：シビーボ
 泥染めの綿製腰巻。
 踊ると音のでる木の木の袋がついている。



資料名：イヤリング
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：ウルブ (KAAPOR)
 これらの3対の小さな耳飾りは、青や赤、紫などの
 カザリドリの鮮やかな羽毛で作られている。



資料名：イヤリング
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ
 ペニヘラサギの羽根のついた耳飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 木の皮と鳥の羽根のついた首飾り。



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 小さな木の皮と綿糸を使った子ども用腕飾り。



資料名：首飾り
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：ウルブ / カアポール
 カザリドリの青とオオハシドリの羽の羽根が印象的な首飾り。



資料名：耳飾り
 収集地：ブラジル、アクレ州
 制作民族：カヤビ
 木でできた心棒に、オオハシドリの
 赤と黄の羽毛を取り付け、芯の部分にサルの
 歯を差した。花のように美しい耳飾りである。



資料名：腕輪
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：カマコラ
 シンゲー川最上流域に住むカマコラ族の、
 黒と黄のコントラストの美しい腕輪。



資料名：腰飾り
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 ヤシの葉で編んだ腰飾り。踊ると木の皮が触れ合っ
 て、ガラガラと音がする。



資料名：腕飾り
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 腕飾り。



資料名：腕輪
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：ウルブ (KAAPOR)
 綿糸のまわりに羽根を取り付けたもの。



資料名：背負い籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 プリチヤシの葉で編んだ大きな籠で、使細から取った
 マンジョーカ芋やハイイタ等を選ぶのに用いられる。



資料名：背負い籠
 収集地：ブラジル、ハラ州
 部 族：カヤボ
 運搬用背負い籠。
 木の皮や果実などを運ぶときに使用する。



資料名：椰子の葉の籠
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 部 族：カラジャ
 保存用籠。装身具や羽根製品が壊れないよう保護するために
 用いられる籠。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、マツグロソ州
 部 族：ワウラ
 シンゲー川最上流のワウラ族の保存用籠。
 籠の側面に幾何学模様が編み込まれている。



資料名：セストコンタンバ（籠）
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 蓋つきの籠。多色の羽根がつけられ、
 籠の側面にはジャガーの模様が編み込まれている。



資料名：運搬用籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 プリチヤシの葉と葉柄で作られている。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 小鳥や（アグーチなどの）小動物の飼育用籠。
 プリチヤシの葉で作られており、飼育する小動物のため
 通気性がある。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 小鳥や小動物の飼育に用いられる籠。
 小動物は食用としてだけでなく、多くはペットとしても
 飼育される。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 運搬籠。側面には幾何学的模様が編み込まれている。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 運搬用籠。プリチヤシの葉製。



資料名：肩掛けカバン
 収集地：ブラジル
 制作民族：カネラ
 プリチヤシの葉で作った肩掛けカバンで、
 男性が狩りに行く際に小物を入れる。



資料名：肩掛けカバン
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：カネラ
 小物入れ用カバン。



資料名：背負帯
 収集地：ブラジル、アマゾンナス州
 制作民族：ワイワイ
 樹皮布で作った赤ちゃんの抱え帯。女性用。

収蔵目録



資料名：背負帯
 収集地：ブラジル、パラ州
 部 族：カヤポ

ヤシの葉で編んだ赤ちゃんの抱え帯。羽根飾りが付いている。女性用。



資料名：籠
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：パニツァ

ヤシの葉柄で編んだ貯蔵用籠。幾何学模様が付いている。



資料名：籠
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：アバライ

作りかけのカゴ。



資料名：籠
 収集地：ブラジル
 制作民族：カネラ

不明。



資料名：籠
 収集地：
 制作民族：グアラニー

不明。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

トクンヤシの尖ったトゲを歯とした片面のくしで、ひし形や波形の幾何学模様が美しい。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：ワイワイ

2列の鳥の骨の間に、先端を尖らした木片を平行に並べ、着色した綿糸で幾何学模様を織りこみ、軸の先端に羽飾りが付いている。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：カマユラ（ツビー / グアラニーの一族）

1968年収集。シングー川最上流域のカマユラ族の籠。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：マク

鳥の羽根で飾られた籠。



資料名：くし
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：メイナコ

2本の軸の間に竹の薄片をはさまり、白い綿糸で固定した大型のくしで、両面に歯が付いている。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：ワイワイ

2列の鳥の骨の間に、先端を尖らした木片を平行に並べ、着色した綿糸で幾何学模様を織りこみ、軸の先端には飾りが付いている。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：タピラベ

籠。



資料名：くし
 収集地：ブラジル北部
 制作民族：カラパロ

白い綿糸で固定した大型のくしで、両面に歯が付いている。カマユラ族とメイナコ族とは近隣部族で籠のスタイルも類似している。



資料名：くし
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：クイクロ

クイクロ族の籠。



資料名：はたき
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 部 族：パレシ

小屋の中の埃をはたくもの。女性用。オオアライタイの尻尾にシカの足の骨が付いている。



資料名：ほうき
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：ウルブ (KAAPOR)

小屋の中を掃除するときに用いる。女性用。



資料名：ほうき
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：ヤノマミ

小屋の中を掃除するときに用いる。女性用。



資料名：ほうき
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：バラカナ

小屋の内を掃除するのに用いる。女性用。



資料名：棍棒
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

堅くて重い木で作られ、たたいて相手に打撃を与える武器で、狩猟や戦闘の際に使用される。戦士の勇らしさや攻撃力のシンボル。



資料名：ベンチ
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：ナファク

シングー川最上流域のナファク族の木製椅子。一本の丸太を丸彫りにし、鳥を象徴している。



資料名：樹皮布
 収集地：ブラジル、アマゾン州
 制作民族：ティクノ

アマゾン川中流に住む部族がイチヂク属の木の内皮を木づちでたたき伸ばして作った樹皮布。用途は飯皿や腰帯、住居の壁面装飾。



資料名：わらじ
 収集地：ブラジル、マラニオン州
 制作民族：グアジャジャラ

ヤシの葉で作った子ども用わらじ。



資料名：弓削り（クビワベッカリーの牙）
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：チリオ

細い木の棒に、アグーチやカピバラなどの歯やクビワベッカリーの牙を取り付けた用具。のみやかんなのような役割。



資料名：穴あけ具
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：ボボロ

タカやインコの羽根のついた柄の先に尖らした骨をつけ、耳に穴を開ける用具として用いられる。



資料名：木製の短剣
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：テンベ

戦いや儀礼に使う短剣で、塗装やきれいな鳥の羽根で装飾されている。



資料名：木製の短剣
 収集地：ブラジル、マッドグロソ州
 制作民族：テンベ

戦いや儀礼に使う短剣で、塗装やきれいな鳥の羽根で装飾されている。



資料名：横笛
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：カヤポ

指穴が付いていない円筒形の横笛で、材料は竹で表面には編み込み模様が付いている。

収蔵目録



資料名：フルート
 収集地：ブラジル マットグロソ州
 制作民族：ボロロ

タボカ(ヤシの一種)の周りに模様をつけた
 祭りで使う横笛。



資料名：骨笛
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：ワイワイ

シカの大腿骨で作られた笛で、
 音のバリエーションを出すため3つの指穴がついている。



資料名：首飾り(ネクタイ)
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：カヤポ

首飾りの一種で、ネクタイのように
 胸の上にカラフルな羽根を付けた棒を下げる。



資料名：人面形象土器
 収集地：ペルー、マドレ・デ・ディオス県
 制作民族：ピロ

壺の上部は人の顔が描かれ、下部は幾何学模様が
 つけられている。



資料名：人面形象土器
 収集地：ペルー、マドレ・デ・ディオス県
 制作民族：シビーボ

ペルーのシビーボ族は、白地に黒や赤の線の
 幾何学模様のついた、多様な土器を制作する。



資料名：木製人形
 収集地：ブラジル ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

木彫に焼ごてで模様をつけた人形。



資料名：木製人形
 収集地：ペルー、マドレ・デ・ディオス県
 制作民族：シビーボ

木彫に衣服を着せた人形。



資料名：土人形
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

カラジャ族の女性たちが粘土で形を作り、土鍋の上で
 焼き上げた素朴な土人形。多産や部族の繁栄を祈って
 作られる原始的形態。



資料名：土人形
 収集地：ブラジル、ゴイアス州
 制作民族：カラジャ

カラジャ族の女性たちが粘土で形を作り、土鍋の上で
 焼き上げた素朴な土人形。多産や部族の繁栄を祈って
 作られる原始的形態。



資料名：人形
 収集地：ブラジル マットグロソ州
 制作民族：シェレンチ

子ども用の玩具として、母親がヤシの葉で
 作った人形。



資料名：お椀
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：アスリニ

クーヤの実を半分に割り、中身を除き、
 乾かし、全体に幾何学模様をつけたもの。



資料名：お椀
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：アスリニ

クーヤの実を半分に割り、中身を除き、
 乾かし、全体に幾何学模様をつけたもの。



資料名：お椀
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：アスリニ

クーヤの実を半分に割り、中身を除き、
 乾かし、全体に幾何学模様をつけたもの。



資料名：お椀
 収集地：ブラジル パラ州
 制作民族：テンベ

クーヤの実で作られたお椀。



資料名：お椀
 収集地：ブラジル、パラ州
 制作民族：アスリニ

クーヤの実を半分に割り、中身を除き、
 乾かし、全体に幾何学模様をつけたもの。

*本資料は2万点に及ぶコレクションの一部をお預かりして撮影したものです。

*その他、狩る、漁る、奏でる、紡ぐ、住む、食べる、などの日常工芸品の他、昆虫、鳥類、動物の剥製など多岐に渡り保有。